

## はじめに――「師」と出会う前に考へること――

「奇跡の国」のアップダウン<sup>6</sup>　歴史に学ばない日本人<sup>8</sup>　未来は過去に語られている<sup>10</sup>　最良の方法は師を選ぶこと<sup>13</sup>　まずは、明治維新に「師」を求める<sup>15</sup>　教育こそ「上り坂」の秘訣<sup>18</sup>　渋沢栄一に師が教えた学びの方法と奇跡の翻訳<sup>20</sup>

## 1 維新回天への先駆けとなつた師弟

吉田松陰——高杉晋作

得難きは「師」<sup>26</sup>　教育とは「湯瓶」なり<sup>28</sup>　「邂逅」の条件<sup>30</sup>　藩校は誕生したもの<sup>……33</sup>　学問の復興は職につける政策にあった<sup>36</sup>　教育制度の改革が

“非常の才”を生んだだ?<sup>38</sup>　「湯瓶」に必要な“師”的配慮を説く、吉田松陰と二宮尊徳<sup>41</sup>　廣瀬淡窓の教師失格の述懐<sup>43</sup>　やせ我慢で矜持をつらぬく<sup>46</sup>　「六中觀」の教え<sup>49</sup>　松下幸之助が語った「採用試験の六・三・一の原則」<sup>51</sup>　松陰を鍛えた玉木文之進の“スバルタ教育”<sup>54</sup>　ペリーの戦術を予測していた松陰<sup>57</sup>　『イソップ寓話』で歐米列強が理解できた頭脳<sup>59</sup>　変わる松陰の“師”象山への印象<sup>62</sup>　行動する松陰、「松下村塾」を主宰す<sup>64</sup>　松陰の遺書『留魂錄』<sup>67</sup>　“師”的志を受け継いだ“弟子”たち<sup>70</sup>　高杉のあとにつづいた松陰門下生<sup>72</sup>

## 2 フランスの“革命の申し子”に憧れた幕末の英傑

ナポレオン一世・佐藤一斎——佐久間象山——吉田松陰・勝海舟・坂本龍馬

勝海舟と坂本龍馬、吉田松陰の師は佐久間象山である<sup>76</sup>　性格に問題のあった象山<sup>78</sup>　吉田松陰も懽れていたナポレオン一世<sup>81</sup>　フランス版下巻上で成り上がるナポレオン<sup>84</sup>　史実のナポレオンの後半生<sup>86</sup>　象山へナポレオンを伝えたのは誰?<sup>89</sup>　象山、ナポレオンを詠う<sup>92</sup>　師ナポレオンを自らに擬し、琴をつま弾く象山<sup>95</sup>　佐藤一斎は象山を好きにさせた<sup>98</sup>　一斎の教えを胸に蘭学に挑む<sup>100</sup>　江川太郎左衛門第一号<sup>103</sup>　太郎左衛門の象山教育<sup>106</sup>　「殿さまの首切りだづま」と「象山の畜生だづま」<sup>109</sup>　いきなり野戦砲を製造した象

山 112 教育は難しい、佐久間恪一郎の例 114 象山にめざす方向を学んだ海舟 118  
海舟の二人の“師” 120 海舟は“師”を求めて奔走した 123 「底」を叩かざり  
しは遺憾 126 海舟『ツーフ・ハルマ』を二部写す 129 『ソルダート・スコール』  
が教えること 132 氷解塾を開き、幕府開明派官僚となる 134 海舟と龍馬の「邂逅」<sup>136</sup>  
海舟と龍馬、師弟の活躍 140 「孤独の騎士」と海舟の後進への遺言 143

### 3 「適塾」の開かれた学問が与えたもの

#### 緒方洪庵——福沢諭吉

日本一の私塾を主宰 148 「万民扶持する方法」を求めた洪庵 150 洪庵が塾生に説いた「医は仁術」 153 「適々斎塾」の「自学主義」について 155 洪庵の「弟子」福沢諭吉 158 師・洪庵の真心にふれる 161 福沢の刻苦勉励 164 福沢の教育を受け継がれた“師”的教え 166

#### 4 禅と陽明学が幕府を瓦解させた

無參禪師・王陽明・大塩平八郎・島津斉彬・藤田東湖——西郷隆盛

突きつけられる真実に、狼狽える幕府 170 身につけるのは心の余裕 172 禅の教え方 175 西郷隆盛の土台を創った陽明学 177 求めるのは「知行合一」 179 陽明学の泰斗・大塩平八郎 182 劇薬を飲んだ大塩平八郎 185 西郷の、陽明学への傾倒は生涯のもの 188 西郷の斉彬信仰 191 “二つ頭”的先見性を阿片戦争にみる 194 斉彬の解答 196 西郷、名君斉彬と「邂逅」する 199 弟子となるために必要な条件 201 “師”的教えを補うもの 204 東湖に魅了される西郷 207 西郷、“先輩”東湖に戦略を学ぶ 209

### 5 フランス人銀行家に西洋文明を教えられた“日本資本主義の父”

#### 尾高惇忠・フリュリエラール——渋沢栄一

奇跡を成し遂げた男 214 一人目の“師”尾高惇忠 216 惣忠から学んだ「挿遣り主義」 218 身分制度に抗い、勤王過激派へ 221 転向者のみた歐米列強 223 二人目の師・フリュリエラールに感謝すべし 226 遅れていたフランスを、一流国家にした秘訣 228 渋沢の学びとその応用 231 明治・大正の経済界をリード 233 『論語と算盤』 236 “境界人”が近代日本を創った?! 238